

滿山紅葉照，映天雨雪霏。

長良子

宇和原真館の中村義雄氏を訪ねて

西年寺のしへ往紅葉といふ紅葉

同

兩子寺正後に、一行は安政へ谷をまつすぐ下り、三浦梅園の旧宅をたずねる。数々の遺品を拝見し、改めて梅園先生の偉大さに打ち伏る。藤原へおまけに土産いをひなば、さんしゆゆふ赤い実が美しい。

梅園の旧居の小菊咲き乱れ

長良子

きふく解説下

時刻は四時を十や左。帰りと急がねばならぬ。安岐
に出て、奈多八幡の海岸の松並木を十や、柳葉を経て日
本橋へ入る。日本橋の前で止める。大竹、荒金両

先生が待ち受けてすく案内下さる。本堂前の天然記

念物大蘇鉢に鑿く。日は既に懶見山の側に西落す。

十ばかり壯大な五輪塔が、墓地一帯に建立されてゐる。

せむる築地に立ちつくして、感動ながら大竹先生の話

此上實之つゝ、最後の見事と終つてハスに乘る。

今日文化の由、一時之間、之比數日若々久旅行、賑やかに樂

一、二の方は車に酔って外乗牀へ落す。

左へは午後八時で、右へは九時で、中間の時間は、この間に亘る。

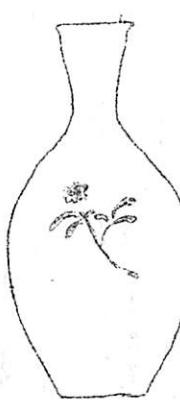
て、記録の筆をおくこととする。

一
後

其の生活の中にとり入れ古、幸い伊村氏は、今度いつてこそこのようす機會を私共に与えて下さると云ふこと、全く辱ないことである。全員衷心から謝意を表して、三塙湖大上陸ち左右訪問を終り、午後土時すず辞去した。
（羽柴）

「甚薩ハ面」は寺院の祭式に用ひるまで、はじめて实物を見る機会と
せつた。不思議なが如じて見るものにくらべ、すばらしい出来である。
「南無依太夫像」も初めて拜するまゝ、中林氏の仏像、彫刻についての
深い造詣に打左れる。『春雨の陰』にして帆足李雲二十二次工作といふ。
書画についてはすぐれたものと多數愛蔵され得おられた。
こうよつたへ今日が鬼皮重慶殿のほんと一部今すぐれ左芸術作品、古美術
品の運搬、蒐集、鑑賞、保存管理についてもお講じました。到底私共
莫似外木多みよではないが、よしとは誰が見てよいつ見てもよい、それでこな
う本古美術品につとめて接し、鑑賞の眼と養は、ナイン高雅な芸術を私

しき、手本持てどもよく其の絵付程より重量感、やうけ多く持かれ方絵え、にじん古ようを被毛氣氛へ絵付は。こうと左程後少く鑑賞出来ず、が、深は、どう品も取ると中井氏は。お義いみから精神を入れて遠見、殷などを愛蔵して「る由」耳。今日及時に御器と中心に見せて、いかだいたが、その外イオヒーとては、「薩々画」、「南無仏太子像」、「李雨の絵」などか懇切に解説と共に



十一月三十二日、午後二時、新造の中村家を訪ねる。平田篠山をはじめ高木愈外などを遣し、新築の居間で大きなテーブルを囲んで中村義康氏にお詫びを承る。先ず詫は波越焼について、確かる波越焼ほどこだわるが、誰が持つ